



# まさかず かくま正一通信 (No.28)

## ごあいさつ



皆様こんにちは。いつも温かいご支援ご指導を賜わり心から感謝申し上げます。お陰様で、元気に活動させていただいております。

最初に、富山県議会において、政務活動費を巡る不祥事が発生しましたことは誠に残念であり、県民の皆様への失望と信頼失墜に対し議会人として深くお詫び申し上げます。私達、議員一人一人が襟を正し、しっかり使命を果たすことにより、富山県議会の信頼を回復していかなければならないと存じます。

さて、昨年3月の北陸新幹線の富山・金沢開業は、富山県の新時代到来を強く感じさせるものでした。これと軌を一にするように、国の地方創生政策が本格スタートしました。人口減少が進む中、この2つをチャンスにして、県内市町村と県が連携して活力ある地域づくりをしていく時です。

様々な課題がありますが、良き社会を次世代につなぐよう、全力で取り組んでまいりたい所存です。皆様のご指導と叱咤激励を賜わりますよう心からお願い申し上げます。

平成28年10月吉日

富山県議会議員

鹿熊 正一

## 当面の私の活動方針

1. 朝日町・入善町、新川地域（朝日町・入善町・黒部市・魚津市）、富山県の諸課題の前進に努力する
2. 社会的弱者への支援に努める
3. 県立高校再編の議論を正す

次頁以降、具体的に記します。

# 1. 朝日町・入善町、新川地域（朝日町・入善町・黒部市・魚津市）、富山県の諸課題の前進に努力する

(1) 6月30日、笹島町長・鬼原議長から入善町の平成29年度要望書をいただきました。また、7月20日、朝日町の諸課題について笹原町長・西岡副議長と共に、また8月25



日、新川地域の諸課題について2市2町の首長・議長と共に、石井知事はじめ関係部局長に要望活動を行いました。



私は、これらの要望書の中にある諸課題の前進に全力で取り組みます。

その主な項目は次の通りです。

## ○あいの風とやま鉄道の利用促進策について

- ・泊駅・入善駅の窓口閉鎖の解消
- ・富山駅—黒部駅間運行の泊駅までの延伸
- ・高齢者や障害者のための泊駅跨線橋対策（2番線ホームへの渡り対策）

## ○教育関係

- ・学校施設環境改善交付金の確保について
  - ・朝日町立さみさと小学校大規模改造事業
  - ・朝日町文化体育センター武道場整備事業
  - ・入善町立飯野小学校大規模改造事業
- ・県立泊高校、県立入善高校の存続をはじめバランスある県立高校の配置

## ○医療・福祉関係

- ・自治医科大学からの常勤医師派遣の継続
- ・新川医療圏内に看護師養成機関の設置
- ・県東部県立高校に福祉専門科の新設
- ・新川むつみ園の施設整備に係る支援

## ○農林水産関係

- ・多面的機能支払交付金の予算確保
- ・農地整備事業笹川地区の事業採択
- ・有害鳥獣対策の促進
  - ・河川敷の雑木・雑草除去の積極的実施
  - ・耐雪型侵入防止柵の設置促進
- ・治山事業の促進

- ・山のみち地域づくり交付金事業の「林道宮崎・蛭谷線」の促進と「林道羽入・明日線（入善町区間）」の早期事業着手

- ・海岸防災林造成事業の整備促進

赤川地区 春日地区 横山地区 五十里地区

- ・藻場整備事業の促進 神子沢地区 田中地区

## ○土木関係

- ・国道8号の入善黒部バイパスの4車線化と入善町現道（柵山～上野間）拡幅の促進

- ・国道8号（小川橋梁）の自転車・歩行者道整備の促進

- ・県道改良事業の促進

- ・入善朝日線（藤原～古黒部、元屋敷～宮崎）の道路改築の促進

- ・黒部朝日公園線（細野、中沢）の道路改築の促進

- ・朝日宇奈月線（藤塚、上今江、舟見）の側溝整備の促進

- ・県道消雪事業の促進

- ・都市計画道路停車場東草野線街路事業及び寺川河川総合交付金事業の促進

- ・海岸事業の促進（浸食対策、寄り回り波対策等）

赤川東草野海岸 宮崎海岸 大屋海岸 入善海岸

- ・砂防事業の促進

- ・石谷川 — 堰堤工

- ・蛭谷地区 — 法面工 擁壁工

- ・岩崎地区 — 地滑り防止施設

- ・朝日町・入善町公共下水道事業の整備促進

- ・泊駅南土地区画整理事業の促進

## ○警察関係

- ・交通危険個所における信号機の新設・改修の促進

## ○観光・環境関係

- ・宮崎・境のヒスイ海岸の海岸環境保全

- ・入善町シーサイドロード整備実現に向けた支援

- ・立山黒部地域のユネスコ世界ジオパークの認定に向けた支援

- ・関電黒部ルート（樺平駅～黒部ダム）の一般開放に向けた取り組みの強化

(2) また、大家庄、笹川、山崎等各地区の県への要望にも、自治振興会長等に同行しました。安全・安心して暮らせる地域づくりを目指し、これからも皆様と共に行動



いたします。

(3) また、9月5日には、自民党二階幹事長はじめ党幹部、また財務省佐藤事務次官、岩元主計局主計官(農林水産担当)、廣光主計局主計官(厚生労働担当)―このお二人は、以前富山県庁に出向一を訪問し、自民党県連として富山県の直面する3つの重要事項について要請しました。次の項目です。



- 北陸新幹線金沢・敦賀間の平成34年度内完成と京都・大阪までのルートの年内決定と早期全線開業
- 国土強靱化や地方創生に向けた公共事業の促進
- 農業農村整備事業予算の確保

## 2. 社会的弱者への支援に努める

(1) 私達自民党議員会は、社会的弱者と言われる方々が、その人権が尊重され安心して暮らせる社会づくりに取り組んでいます。その一例が議員提案条例です。次の条例は、自民党議員会が多くの関係者との意見交換や15市町村長からの意見拝聴をし、当局との議論を経て、議会に提案し成立した条例です。

- 障害のある人の人権を尊重し県民皆が共に生き生きと輝く富山県づくり条例

平成26年11月議会成立、平成28年4月1日施行

また、昨年8月にプロジェクトチームを立ち上げ、一年かけて検討してきた条例が、

- 富山県犯罪被害者等支援条例案
- です。この条例案は、今、パブリックコメント中であり、11月議会に議員提案し成立の見込みであります。



(2) また、設立から35年経過した、新川地域唯一の障害者入所支援施設である新川むつみ園の障害特性に配慮した居住環境の整備と施設の老朽化に伴う改修が必要となっております。国や県の支援が受けられるようしっかり取り組みます。

全ての県民が安心して暮らせることが、石井県政が目指す「元気とやま」の根幹です。私達は、これからも社会的弱者と言われる方々に必要な支援が届くよう努力してまいります。

## 3. 県立高校再編の議論を正す

平成28年3月17日、予算特別委員会で、私は、県教育委員会がまとめた「県立高校整備のあり方等に関する報告書」



に示された県立高校再編の考え方に対し、問題提起をしました。ここでは、2点について記します。

① 当報告書では、県立高校再編の目的を「全ての学校を、1学年4から8学級とすることを目指し、一定の学校規模を確保することなど、学習活動や学校行事、部活動の面で、生徒相互に切磋琢磨することができる学習環境をつくることを目的とする」と明記しております。

しかし、そもそも、生徒相互の切磋琢磨が、何故、中・大規模校でなければできないのか。私の経験からは、2～3人、せいぜい十数人と切磋琢磨したという印象がある。小規模校でも切磋琢磨はできるのであり、学校規模と切磋琢磨を関連付けるのは、おかしいのではないかと。

② また、当報告書では、生徒の能力や個性を最大限伸ばすための教育課程編成等でより良い教育条件を整備するためには、1学年5から6学級を基本的な学校規模とすることが妥当である、としています。

しかし、これは多様な高校生がいることに無神経な考えでないか。つまり、能力や個性を最大限伸ばし自分の限界に挑戦したいという高校生もいれば、ストレスなく高校生活を送り卒後は地元の企業に就職すれば良いという生徒もいる。後者にとっては、小規模校の方が意義ある高校生活を送れるのではないかと。生徒の多様性を踏まえた議論をすべきでないか。

更に、私は、この報告書をまとめた「県立高校整備のあり方等に関する検討委員会」のメンバー構成についても正しました。県内市町村の教育長または教育委員長の中から3人が委員として参画しているが、魚津市、射水市、高岡市といずれも市からであり、町からはゼロです。小規模校の存続について議論する検討委員会のメンバー構成がこのようでは、議論の正当性そのものが疑われます。

これらの3つの問題提起に対する教育長の答弁は、到底、私の納得できるものではありませんでした。

そして、最後に、私は、町に所在する県立高校は地方創生の観点からも存続すべきであると強調しました。即ち、今、各町は、5年間の地方創生戦略を土台にして、生き残りをかけて必死に地方創生の取り組みをはじめたところである。その中において、地元県立高校の存在は当然の前提であり、もしこの間に、高校が無くなれば、地方創生戦略は足元から崩れることになる。従って、1町に1つの県立高校は配置すべきである、として石井知事に質問しました。

石井知事からは、多面的な角度から議論していきたい、との答弁にとどまりました。

県立高校再編の議論は、10月以降に本格化すると思います。同様の課題が全国にあり、様々な議論がなされております。その中には、参考にすべき取り組み例もあると思います。

いずれにしろ、私は、「はじめに統合ありき」論は、絶対あってはならないと考えます。丁寧な議論の進め方を求めると同時に、正すべきは正し、存続に向け努力してまいります。

そして、存続には一人でも多くの皆様の声が大切です。

私の予算特別委員会の質疑は、富山県議会ホームページに掲載されていますので、ご一読いただければ幸いです。

## トピックス

### ○株式会社アムノスが朝日町に工場建設

9月1日、建設予定地（TSS㈱朝日工場隣）で地鎮祭が行われました。

㈱アムノスは、県の医薬工連携ネットワーク事業を契機として、平成26年1月に、富山大学発ベンチャー企業として設立され、「ヒトの胎盤由来の羊膜再利用による乾燥羊膜」の研究成果を基に、再生医療機器としての製品化を進めている会社です。

まず、米国での販売を3年以内に開始し、その後日本での製品化を目指しています。「薬の富山県」の朝日町に、グローバルに展開する大学発ベンチャー企業が誕生。すごくワクワクするニュースですね。



ゆうせいかい

### 熊正会からお知らせ

熊正会は鹿熊正一県議を資金面で支援する資金管理団体です。鹿熊県議の政治活動並びに後援会活動が一層充実し活発になりますよう皆様の温かいご支援を心からお願い申し上げます。年会費は、個人、法人とも一口5,000円からです。

お問い合わせ等は鹿熊正一事務所までご連絡下さい。

### ■ かくま<sup>まさかず</sup>正一通信 (No.28) ■

発行日 平成28年10月

発行者 自由民主党富山県議会議員会

事務所 〒939-0742 下新川郡朝日町沼保1173-1 TEL 0765-82-1333 FAX 0765-82-2113

URL <http://kakuma-masakazu.jp> Eメール [masakazu@kakuma.net](mailto:masakazu@kakuma.net)

© 「かくま正一通信」は資源保護のため再生紙を使用しています。